



落穂会だより

夏季号 2018.7

社会福祉法人 落穂会 障害児入所施設 障害者支援施設 地域生活支援センター 障害者支援施設 障害福祉サービス事業

あさひが丘学園 (Tel 238-4821) あさひが丘 (Tel 238-4821) あさひが丘 (Tel 243-1112) 旭福祉センター (Tel 244-3551) 第二旭福祉センター (Tel 244-3551)

鹿児島市皆与志町2503番地 (Tel 238-4821) http://www.asahigaokagakuen.jp/ http://www.asahi-center.com/



社会福祉法人 落穂会
こどもサポートセンター

ゆうひが丘

こどもサポートセンター ゆうひが丘の開設について

平成三十年七月、鹿児島市吉野町にこどもサポートセンターゆうひが丘が開所します。現在、落穂会では児童通所部門として、児童発達支援センター歩路（定員二十五名）、児童発達支援事業ガーデンキッズセルク（定員二十名）、児童発達支援事業ガーデンキッズトリア（定員十名）、児童発達支援事業我路（定員二十名）、放課後等デイサービス我路（定員十名）、放課後等デイサービスシュバル（定員十名）、放課後等デイサービススピッコロ（定員十名）を展開しています。年々通所のご希望が増え、定員の増加等に対応してまいりましたが、いよいよ既存の事業所での受け入れが困難となり、新しい事業所の開設をする運びとなりました。

こどもサポートセンターゆうひが丘は、児童発達支援事業「希路」（定員十名）、放課後等デイサービス「ニポポ」（定員十名）の事業所として誕生します。「可能な限り地域で必要な支援を受けられるように」と現在、歩路・我路に連携している吉野町近隣のお子さまと、利用を希望しているお子さまを中心に療育活動を展開していく予定です。療育内容はこれまでに落穂会が蓄積してきたノウハウを生かし、保育士・児童指導員・臨床発達心理士・言語聴覚士・理学療法士等がチームとなり、発達支援・家族支援・地域支援・移行支援に力を尽くしてまいります。

「発達に気になる」「お子さまや、就学前に療育を受けていたお子さまが「小学校に上がっても継続して通所事業所を利用したい」というご要望に答える事も私たちの使命だと考えています。

近年、お子さまの状態像やご家族の事情等もさまざまであり、一人ひとりのお子さまがより良く発達できることを保障するためにも、多様なニーズに答えていく必要があると考えます。子どもたちの将来を見据えて「今」どのような支援が必要かを常に念頭におきながら日々子どもたちと共に私たち職員も成長していきたいと思っております。



地域生活支援センター
水 流 かおる

新しい仲間が加わりました!

◆あさひが丘学園 山下 煌生さん
トミカが好きで、警察官に憧れている小学三年生です。

◆あさひが丘 道添 星さん
色んな事を頑張りたいです。少し照れ屋ですが、仲良くして下さい。

酒井 航世さん
音楽が一番大好きです。運動も好きです。よろしくお願いします。

◆地域生活支援センターあさひが丘 吉野 央人さん
ひとつひとつ、作業を覚えて頑張ります。よろしくお願いします。

福永 舜さん
歩くことが好きです。元気いっぱい、楽しくがんばります。

岡村 涼介さん
みんなと楽しくがんばりたいです。よろしくおねがいします。

中村 歩生さん
笑顔忘れずに、あいさつ、返事、報告が出来る様に頑張ります。

◆旭福祉センター 島袋 隼弥さん
作業をたくさん頑張りたいです。

新任職員紹介

◆あさひが丘学園 石牟礼 直樹 支援員
良き隣人となるよう、何事も一生懸命頑張りたいと思います。

◆あさひが丘 前田 拓海 支援員
少しでも利用者の力になればと思います。よろしくお願いします。

水 流 大樹 人事・研修主任
共生社会の実現に向けて、日々邁進したいと思っております。

◆地域生活支援センターあさひが丘 馬籠 裕二 教育相談員
一人一人の自立と社会参加にむけて、がんばって参ります。

永山 理香 言語聴覚士
気づきを豊かに、広い視野を持って仕事に臨みたいと思います。

東 えりか 保育士
一日も早く頼られる保育士になれるよう頑張りたいと思います。

角 由香里 保育士
毎日、子ども達から元気をもらっています。これから宜しくお願いします。

山口 恵 支援員
子どもに関わる仕事は初めてで、先輩方にご指導をお願いします。

導頂きながら子ども達の笑顔に癒され日々の仕事をしている状態です。これから宜しくお願いします。

有田 陽子 支援員
子ども達の笑顔と頑張る姿に元気をもらっています。おばさんパワーで頑張ります。

坂本 千絵 生活支援員
笑顔忘れず、少しでも早く業務を覚えて利用者の方が安心して快適に過ごせるよう頑張ります。

◆ガーデンキッズ セルク 黒田 耀子 保育士
一日でも早く信頼できる支援者になれるよう頑張ります。

◆ガーデンキッズ トリア 川浪 唯 保育士
子どもたち一人ひとりに合った支援ができるよう、がんばります。

◆旭福祉センター 小村 尚史 支援員
毎日楽しく・元気に・笑顔で頑張ります。

井上 莉那 支援員
どんな時も笑顔で頑張ります。

今給黎 貴史 支援員
新社会人として何事にも一生懸命取り組み、利用者の方々と楽しく接していきたいです。

日高 優子 支援員
毎日笑顔で利用者の方々と楽しく過ごしていきたいです。

カフェNODOKA 新商品!!

カフェNODOKAで使用しているドレッシングを商品化しました! 玉ねぎの食感とマヨネーズの相性抜群です!

カフェNODOKA オリジナルドレッシング/400円

ガーデンキッズトリア 開級式

ドキドキするね。大丈夫、大丈夫。

お名前 上手に言えるかな

吉富 沙希 支援員
利用者の方々と一緒に新しいことにチャレンジしていきたいです!

◆ 行事報告 ◆

- 4月1日(日) 春山地区総会
春山公民館にて昨年度の報告や今年度の新たな役員
の選挙が行われました。今年度も地区の方々と協力し
て地域を盛り上げていけたらと思います。
- 4月3日(火) 児童発達センター歩路、
ガーデンキッズトリア開級式
歩路：新しいお友達も加わり、楽しい雰囲気での開
級式になりました。新しいお帳面の配布を1人ずつ行い、
元気なあいさつをして受け取ることができました。今
年度も子ども達と元気に過ごしていきたいと思ひます。
トリア：10名の子ども達が開級式に参加しました。
胸に胸章代わりの花を付け、いつもと違う療育室の雰
囲気にワクワクの笑顔を見せる子ども達。自己紹介の
時間では、1人ずつ皆の前に出て、名前を発表しました。
今年度も明るく楽しく元気に活動していきたいと思ひ
ます。
- 4月15日(日) 落穂会・ゆうかりふれあいバザー
詳細は4ページをご覧ください。
- 4月22日(日) 春山3班清掃活動・花見
旭福祉センターの支援員・利用者が春山地区3班の
清掃活動に参加しました。夜には花見の場として第二
旭福祉センターを開放し、地域交流の場として活用し
ていただきました。
- 4月28日(土) 第39回知的障害関係施設親善球技大会
あさひが丘からは利用者35名がティーボール、グ
ランドゴルフに、旭福祉センターからは利用者6名が
ソフトバレーボールに出場しました。それぞれ一生懸
命競技に取り組む姿が見られました。
- 4月29日(日) 第13回吉野兵六ゆめまつり
旭福祉センターでは吉野公園で開催された吉野兵六
ゆめまつりに出店と、見学に出かけました。利用者の中
には販売の手伝いをしてくれた方もあり、元気よく
呼び込みをしている姿が印象的でした。
- 5月12日(土) バーベキュー大会
旭福祉センターで通所・入所利用者合同のバーベキュー
大会を開催しました。天候に恵まれ、みなさんたくさ
ん食べて語って、さらに親睦を深めることができました。
- 5月13日(日) あさひやワークショップ
今回も、NPO法人Pandaのご協力のもと12
家族37名の方にご参加いただきました。詳細は4ペー
ジをご覧ください。
- 5月13日(日) あさひが丘学園保護者会総会
地域生活支援センターにてあさひが丘学園保護者会
総会が開催されました。43家族54名の皆様にご出
席いただきました。今年度の方針や行事等について説
明があり、総会後は利用者の作品販売に多くのご協力
をいただきました。
- 5月14日(月) 木ノ下大サーカス鹿児島公演観賞
地域生活支援センターでは木ノ下大サーカスを観賞
しました。皆さん、次々と繰り広げられるダイナミック
な演舞に釘付けでした。終演後も「サーカス凄かった
ね。」と余韻に浸る姿がありました。

四月

五月

- 5月15日(火) 福岡ソフトバンクホークス
VS千葉ロッテマリーンズ観戦
地域生活支援センターからGH利用者8名と支援員、
旭福祉センターから入所利用者8名と支援員がそれぞ
れプロ野球観戦に出かけました。サポーターの応援に
合わせて手を振り上げて応援するなど白熱する試合展
開を楽しむことができました。
- 5月19日(土) 児童発達支援センター歩路・
ガーデンキッズセルク・トリア合同保護者会
51家族65名の参加がありました。今回は、鹿児
島市教育委員会学校教育課の脇博美先生から就学に関
して話をいただき、その後就学等について茶話会
という形で保護者との意見交換会を行うことができま
した。
- 5月20日(日) 第12回鹿児島県障害者スポーツ大会
鴨池補助競技場、県立サッカーラグビー場でフライン
グディスク、陸上競技の県大会が開催されました。
練習する機会が少ない中でも、それぞれの力を発揮し、
入賞者も多く誕生しました。
- 5月20日(日) 端午馬術大会
霧島市(霧島高原乗馬クラブ)で行われた端午馬術
大会にあさひが丘学園から支援者2名が参加しました。
第10競技クロス障害飛越競技では、18名中9位と
13位という成績をおさめました。次回は上位入賞を
目指して頑張りますので、応援よろしくお願ひします。
- 5月22日(火) アートイベント
ガーデンキッズセルク
詳細は3ページをご覧ください。
- 5月29日(火)～31日(木)
あさひが丘学園宿泊旅行：名古屋
利用者5名、職員3名で行って来ました。レゴラン
ドはあいにくの天気でしたが、室内のアトラクション
を楽しみました。最終日のリニア鉄道館は、実際に走っ
ていた新幹線やリニア鉄道に乗ることや車掌体験もで
きて、とても楽しい思い出になりました。
- 6月6日(水)～8日(金)
あさひが丘学園宿泊旅行：長崎
利用者4名、保護者・支援員で行って来ました。新
幹線での移動に皆さんとても喜ばれ、現地ではハウス
テンポス内のホテルに泊まりました。5Dシアターで
立体的な映像を体験したり、アジサイの壁をみたり、
まるでヨーロッパのような風景を楽しみ、充実した3
日間でした。
- 6月6日(水)～8日(金)
やまかたやパンとカフェのマルシェ
&ハンドメイドフェスタ
ベーカリー棟では3日間、山形屋で開催されたマルシェ
に出店しました。菓子班の利用者の方たちも見学に出
かけ、実際に自分たちの作ったパンが売れる所を見て
刺激を受けたとのことでした。
- 6月19日(火)・20日(水)
知的障害児(者)関係施設新任職員研修会
あさひが丘から12名、旭福祉センターから5名、
計17名の新任職員が2日間の研修会に参加しました。

五月

六月

「地域における公益的取組」実践報告

「NPO法人との連携による生活困窮者支援、居住支援について」

地域生活支援センターあさひが丘 相談支援専門員 羽月浩二

平成二十八年三月、改正社会福祉法が成立し、「地域における公益的な取組」を実施することが社会福祉法人の責務として規定されました。私は平成二十九年四月より、週二日、「NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会」「NPO法人やどかりサポート鹿児島」に相談員として出向しています。二団体とも十年以上の活動実績があり、歴史ある団体です。それでは、まず、どのような団体なのか紹介します。

■NPO法人 かごしまホームレス生活者支えあう会

【事業目的】

鹿児島県において、ホームレス生活者及びホームレス生活者となるおそれのある者の生活及び自立を支援し、人権を守り、自立したホームレス生活者等が再びホームレス生活者等となることを防ぐとともに、ホームレス生活者等であることによるあらゆる差別をなくすための事業を行い、もって誰もが暮らしやすい社会を形成し、社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

■生活困窮者・自殺企図者のための緊急一時宿泊施設(シェルター)

の運営
・生活保護課からの要請により受け入れ
■自立準備ホーム事業(法務省より受託)の運営
・保護観察所(更生緊急保護)からの要請により受け入れ
■住宅の紹介
・賃貸住宅を探しているホームレス生活者等を対象として、低廉な物件を無償で紹介
■炊き出し
・鹿児島市内の公園、その他の公的施設において、ホームレス生活者等を対象として、食料、衣類、日用品等を無償で提供
■フードバンクへ食品の受け取り
・炊き出し時や食べ物に困っている方々への食品貸付に使用
■夜回り活動

■NPO法人 やどかりサポート鹿児島

【事業目的】

鹿児島において、障がい・貧困等の社会生活上の困難を抱えている人々に対し連帯保証提供事業、連帯保証人提供事業等の住まひの確保に関する支援事業及び福祉サービス事業を行い、利用者が社会的に孤立するこ

となく豊かな人間関係とつながりを保ちながら地域で安心して暮らせるよう支援を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

【主な活動内容】

■利用者が締結する住居の賃貸借契約において連帯保証人となる事業
・居住支援が必要な下記対象者の面談、入居後の支援体制の助言・構築、連帯保証の審査、連帯保証人としての見守り活動等
【対象者(住宅確保要配慮者)】
障がい者、路上生活者(もしくはその恐れがある方)、DV被害者、高齢者、低所得者、ひとり親・子育て世帯、児童養護施設退所者、その他利用決定委員会が認める者

■NPO法人での活動を通して

かごしまホームレス生活者支えあう会(以下、支えあう会)については、テレビ等で見る炊き出しのイメージが強かったのですが、実際に行ってみると炊き出し以外にも、路上生活者・自殺企図者・刑務所からの出所者等の一時受け入れ(緊急一時宿泊施設)を行い生活保護の申請、住居の紹介、健康面の支援、債務整理や法律的なことは司法書士・弁護士

等につなぎ新しい生活のスタート(社会復帰)がされるよう支援されてきました。
支えあう会に来る方々の面談で生活歴を尋ねると、仕事を転々としていた方、高齢であることや病後・後遺症・障がいがあること等で思うように仕事に就けなかった方、生活苦で窃盗等を行い刑務所に入っていたなど様々です。

また、支えあう会の一時受け入れ(緊急一時宿泊施設)の利用者数については、平成二十八年年度支えあう会の総会資料によると、一年間で六十名の受け入れがあり、その中で、なんらかの障がいのある方(疑いを含め)は、身体障がい者は三名、発達障がいを含め精神障がいを抱えている方は七名、知的障がい者は二名との報告があがっています。

近年、地域生活を支える福祉サービスが整ってきたとはいえ、支えあう会に来る方々を見ると制度の狭間にいる方であったり、このような状況に至るまで相談する相手がいない、孤立し、どうすればいいのか分からない等、自分ではどうしようもなかった状態が伺えました。今後、生活困窮者、路上生活者、生活困窮による犯罪を生みださない為にも、予防的対応が必要であり、相談支援機能(アウトリーチ等)を強化し、生活困窮者自立支援制度や福祉サービスの活用、就労支援、健康づくりや疾病予防等など、行政・福祉・NPO法人・医療機関等が連携し、生活上のリスクを予防・軽減することが必要であると思ひます。

次に、やどかりサポート鹿児島(以

「半社会人」



あさひが丘学園 利用者
直島 千彬

一昨年の八月に入所してから、三年が経ちました。入ってきた当初は、初めて会う人ばかりですごく嫌でしたが、少しずつ慣れていき、今では自分から話しかけられるようになりました。自分から話せるようにはなりましたが、極度の人見知りのため、限られた人としか話することができず、とても苦勞しています。

今は、地域生活支援センターあさひが丘の中にある「ワークショップあすもね」という所で、実習という形で働かせてもらっています。

この実習期間に、できるだけコミュニケーションをとろうと思います。あすもねで働いている方々は、一人一人個性的でとても面白いです。最初はすごく不安でしたが、見知った顔が何人かいたし、職員も話しやすい方達だったので、少しホッとしました。

私の将来の夢は、調理師免許をとって飲食店で働くことです。

昔から飲食業の仕事に興味があり、憧れていたもので、いつか私もあの人達のように働けたらと思っています。

さんほみち

仕事に就いてお金が入ってきたら、母に何かしてあげたいです。

「通園を始めて一年」

旭福祉センター 保護者
河内 敏晴

平成二十九年六月に旭福祉センターさんとご縁が始まって、六月で一年になります。

相談支援事業所の紹介で旭福祉センターさんの施設見学に行き、多くの作業場を見て、安心して働けると思い、家族と本人と話し合ってから近く、入所が出来る施設であることが決め手で手続きをさせていただきました。

バス通園で、最初は少し不安でしたが、本人も友達が出来て、楽しく喜んで職場で働くことが出来ている様子を見て安心しました。

新年会、ふれあいバザー、バーベキューなどの催事に、自分から参加したいと楽しんでみる予定です。

今年からは短期入所の練習を始め出して、友達もできて喜んで、泊まりの日をいつも楽しみにしていますので、私達も色々と体験をし、元気に過ごして行くことを希望しています。

園長先生、職員の方や、旭福祉センターの皆さんにもこれからもご迷

惑を掛けることもあると思いますが、よろしく願います。

「板前を経て」



旭福祉センター 職員
村山 昭太

私は、旭福祉センターに入社し四年の月日が過ぎようとしております。毎日が充実した日々を過ごさせていただいております。センターに入社する以前は板前をしており、全くの異業種の世界に飛び込むのに大変不安だったのを覚えています。しかし施設長をはじめ、諸先輩職員、そして利用者の皆さんに助けられ今日に至る次第であります。

今はカフエNODOKAで蕎麦を担当しており、以前の仕事の経験を活かせることを嬉しく思っております。皆さんが口を揃えて「板前の世界というのは厳しい世界だ」とおっしゃりますが実はとても楽しく素晴らしい仕事だということはこの文章で皆様に紹介させて頂きます。

新人の板前の仕事として与えられる仕事は、朝、先輩が見える前にすべての準備を終え、お茶を用意し、板場・八寸・揚場・煮方という部署に分かれ先輩の補助にあたります。そしてお昼には賄い作りという仕事があり、休憩時には桂剥きなどの練

習をし、夜の営業が終わったら掃除、包丁研ぎをし、次の日の準備をして一日が終わります。休みの日は朝、魚屋で魚の卸し方の練習をして昼からは自由時間という日々を過ごします。これを年間通します。

他の人からみれば休みの日や休憩時間にまで働かないといけないのかと思われるかもしれませんが仕事ではなく常に勉強という意識をつけさせ、どこに行っても恥ずかしくないようにという心構えを構築する、この頃の仕事をしておかをするのとしなのでは一年間で大きな差が生じ、先輩たちも頑張る人には色々な事を教えてくれますし信頼関係も生まれ頼まれる仕事も多くなり楽しくなれます。さらに自分の作る料理が世に出せることができる素晴らしい仕事なのです。

これまでの経験こそが自分自身の礎となりこれからの人生の糧になっていけるようにカフエNODOKA及びベーカリー楓で自分自身を磨いていけるよう、そして利用者の皆さんと楽しく仕事ができる環境を築きあげていこうと思います。

さんほみち

下、やどかり)については、住宅確保要配慮者に対して、やどかりが連帯保証人となり住宅の確保を支援する事業ですが、単に連帯保証人になるだけではなく、入居後の生活が安定的に行えるかという点も検討し、本人に関係する福祉・医療関係者と話し合いながら居住支援が行われています。

相談を受けて感じたことですが、連帯保証人の問題は深刻で、例えば高齢者の方であれば、「これまで連帯保証人だった両親が他界し、他に連帯保証人を頼める人がいない。」「兄弟や友達が連帯保証人になってくれると言ってくれたが、兄弟や友だちも高齢である為、不動産が受け付けてくれない。」また、ある精神障がいのある方は、「家族とは疎遠なので連帯保証人を頼めない。」「病院(精神科)を退院したいが、連帯保証人になってくれる人がいない。」等、社会的入院を余儀なくされている方もいました。やどかりに来る方は、一様に連帯保証人という壁に苦しんでいます。これは特別な事ではなく、高齢化による単身世帯の増加、家族・

親族の希薄化等、連帯保証人をたのめる人がいない、身寄りがない方々の切実な問題であると思われました。このような住宅確保要配慮者の支援については、新たな住宅セーフティネット制度が施行され現在、居住支援協議会にて不動産団体、居住支援団体(やどかりも参画しています)で住宅確保要配慮者の受け入れが、円滑に行えるよう話し合いが進められています。私たち福祉関係者も、身寄りがない方や障がいがあっても地域の中で安心して生活できる、地域移行支援、地域定着支援等の見守り体制が必要であると思えます。今後、住宅確保要配慮者への支援の枠組みが体系化し、誰もが安心して生活する場が保障される社会を願っています。

最後に、先駆的にホームレス支援、居住支援を行っている支えあう会とやどかりの活動に深い感銘を受けるとともに、あさひが丘の職員として出来ることを考え、子ども、高齢者、障がい児者、生活困窮者等、個人の尊厳が守れるよう努めていきたいと思えます。



看板



炊き出し



夜回り

ガーデンキッズセルク アートイベント

5月22日(火)に「BEYOND カゴシマ」の一環としてマルヤガーデンズのアートイベントに参加しました。「BEYOND カゴシマ」とは、向かう側(アーティスト)と迎える側(お店)が、互いの垣根を取り払い、未来【BEYOND: その向こう側へ】に向かって「新しい何か」を創っていかうという企画です。ガーデンキッズセルクの子どもたちは、プロのアーティスト、ほたてさきさんとコラボレーションし、セルク前の壁面に一つの作品を作り上げました。子どもたちは思い思いに絵を描き、完成した作品を目を輝かせながら眺めていました。親子で作品を見ながら「ぼくが描いたんだよ!」等、笑顔で話している姿もあり、とても素敵な思い出となりました。



落穂会ゆうかりふれあいバザー

◎4月15日(日)、落穂会・ゆうかりふれあいバザーが開催されました。当日は、1000名を超える皆様にご来場頂き、花苗や創作品等をご購入いただきました。例年この時期に開催しているこのバザーは、毎年のように天気に悩まされています。今年度も前日夜半の大雨の影響で会場にぬかるみがあり、ご来場頂いた皆様にはご迷惑をお掛けしました。



それでもこれだけの方にお集まりいただけるのは、日頃の地域の皆様のご理解の賜物と思っております。本当にありがとうございます。今回はお楽しみ抽選会も3回目とあって一等商品には、かの有名なダイソンハンディクリーナーも登場し、かなりの盛り上がりを見せました。これからも、いろんな形で皆様との交流の場を設け、地域のニーズに合った催しを開催したいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



第6回 ASAHIYAワークショップ開催!!

◎5月13日(日)、第6回あさひやワークショップが開催されました。今回は、全体で12家族37名の方、また、学園児童部の参加もありました。前回同様、陶芸、レザークラフト、ミニチュアダンボールハウス作りを行いました。今回で6回目の開催となりますが、レザークラフトに参加された親子の方は、今回で3回目の参加となり、ワークショップを楽しみにされていたとのこと。時間に余裕ができる程の慣れた手つきで、作品を完成させていました。今回、陶芸・レザークラフト・ミニチュアダンボールハウス共に共通して感じたことは、参加された方と学園利用者・職員との間で盛んに会話が聞かれていたことです。また、参加された方から「ここ来ると、子どもが職員の人に話をしっかり聞いてもらえ、安心感、充実感を味わうことができるようで、毎回楽しみにしています」との話も伺いました。



今後は、初めての方は、もちろん、リピーターで参加して下さる方も、新たな作品作り挑戦できるような工夫し、参加して下さった皆さんが、楽しい時間を過ごせる様、努めたいと思います。次回は、夏休み期間中の7月22日を予定しています。夏の思い出作りに、ぜひ参加してみませんか。

